

【入社3年目】都市地域マネジメントグループ

01 主な仕事内容

私の仕事は、

行政や民間、地域の人たちと一緒に、まちの未来を考え、かたちにしていくことです。

都市計画・ビジョンの策定から、社会実験の企画、まちの空間活用の検討まで、段階に応じて業務仕様は変わりますが、特に意識しているのは、「構想」「実験」「対話」「実装」という4つの段階をデザインすることです。

構想を描くだけで終わらず、現場で試し、対話を重ねながら、制度や空間に落とし込んでいくことが重要と考えています。

そのプロセスを設計し、継続的に動かしていくことが、都市戦略コンサルタントとしての役割：ARの業務内容だと理解しています。

03 仕事のやりがい・おもしろさ

まちづくりの仕事は、**常に「誰のために」を考え続けることが重要**と考えています。

地域の方々や行政担当者の想いを聞きながら、社会の動きや将来の変化も踏まえて、企画を検討し、全体をマネジメントしていく。様々なハードルを、プロジェクトメンバーと共に、残りこえるのが、楽しいです。

また、現場でクライアントや、地元の方と一緒に考え、行動しているとき、互いの強みが自然に噛み合っていく瞬間があります。

そのとき、ARや自分の強みを活かしていると実感でき、心から楽しいと思える瞬間です。

02 印象に残っている業務

「京橋エリア」で現在進行中の社会実験とビジョンづくりの業務です（令和7年度）。都島区では「都島まちづくりビジョン2040」の策定を進めています。

これは、区主導でつくるビジョンではなく、

区民・地域団体・地元事業者と一緒に考え、つくり上げていくボトムアップ型の将来像です。

そのビジョンを実際のまちで実装する調査として、京橋エリアでは社会実験を実施しました。その中で、駅周辺の公共空間（京橋公園）を活用し、地域団体・住民・企業の方々と一緒に、エリアの新しいイメージや活動の可能性を探っています。

もともと活動力のある地域だからこそ、そこで生まれる機運を大切にしながら、将来につながる継続的な動きをどう育てていくか。行政が担うべき役割と方向性、地域の力をビジョンとして整理することに挑戦しています。

04 なぜ、この会社を選んだか

大学では、まちづくりや都市デザインを研究していました。

そこで学んだ知識を社会で活かしたいと考え、都市や地域の現場に深く関われる環境を探していました。

一方で、仕事を通じて、もう一つ大切な視点にも気づきました。

私の父は染色職人で、地域の文化を支えてきた人です。そうした、地場に根ざしながら社会を形づくってきた人々の仕事を、どう未来へつなげていくかに関心を持つようになりました。

アルパックは、計画や制度の枠を超えて、地域の文化や人の営みを尊重しながらまちを動かしていく会社です（と理解しています）。

自分の思考や関心が、ここでなら自然に社会に貢献できると感じ、入社を決めました。